

[特集]慢性副鼻腔炎

「長引く鼻症状」、放っておいていませんか？

慢性副鼻腔炎



慢性副鼻腔炎について

耳鼻咽喉科／浦口健介

頬が痛いし鼻水が
ずっと出ているような…
一度CTを受けて
みようかな？

副鼻腔炎

正常

慢性副鼻腔炎とは？

副鼻腔は、頬や額の奥、目の周りなどにある顔の骨の中の空洞で、鼻の穴とつながっています。この副鼻腔に炎症が起こり、3ヶ月以上続く状態を「慢性副鼻腔炎」と呼びます。かつては「蓄膿症（ちくのうしょう）」という呼び方で広く知られていました。

多くの場合、風邪などをきっかけに発症し、症状が長引いて慢性化していきます。一時的に慢性副鼻腔炎の状態になることもあれば、何年にもわたって続くこともあります。日本では100万人を超える患者さんがいるとされる、ありふれた病気です。近年は、後で述べる「好酸球性副鼻腔炎」のように治りにくいタイプも増えており、注意が必要です。

こんな症状はありませんか？

- 鼻づまり
- 粘り気のある鼻水（黄色や緑色の「くも」）
- 後鼻漏（鼻水がのどに流れる）
- 頬や額の重い感じ、頭痛
- においが分かりにくい
- 痰がからむ咳が続く



診断には「CT検査」が とても大切です

慢性副鼻腔炎の診断と治療方針を決めるうえで、CT検査は欠かせません。鼻の中を覗くだけでは、副鼻腔の奥で何が起こっているかは分からないことがあります。CTを撮ることで、

- どの副鼻腔に、どの程度炎症があるか
 - 炎症の原因は何か
- をはっきりさせることができます。

「片側だけ」の症状には 注意⚠️が必要です

慢性副鼻腔炎は通常、左右両側に起こります。しかし片側だけに症状がある場合、次のような病気が隠れていることがあります。

原因	特徴
副鼻腔の腫瘍（良性・悪性）……	まれですが、悪性腫瘍（がん）のこともあります
副鼻腔真菌症……	カビが副鼻腔の中で増えている状態
歯性上顎洞炎……	上の歯からの炎症が原因

これらは通常の治療では治らないことが多く、CTで早期に見つけることが大切です。

治療について

まずは「保存的治療」から

基本的には慢性副鼻腔炎の治療は、まずお薬を中心とした保存的治療から始めます。

- マクロライド系抗生薬の少量長期投与（通常3〜6ヶ月）
 - 去痰薬
 - 鼻洗浄（鼻うがい）
 - 鼻噴霧用ステロイド など
- また、喫煙されている方は**禁煙**も必要です。

それでも改善しない場合は手術

保存的治療でも症状が良くならない、鼻茸（はなたけ）がある、腫瘍が疑われる場合は、内視鏡による手術を検討します。近年は内視鏡技術の進歩により、体への負担が少ない手術が可能になっています。岡山大学病院では4日間程度の入院で手術を受けていただくことができ、また退院後の処置や経過観察は当院で継続して行えます。

近年増えている

「治りにくい副鼻腔炎」

〜好酸球性副鼻腔炎〜

アレルギーに関係する免疫細胞（好酸球）が原因で起こる副鼻腔炎です。鼻茸（ポリプ）ができやすく、喘息を合併すること多いタイプで、国の指定難病にもなっています。このタイプは、通常の慢性副鼻腔炎で使われる薬がほとんど効きません。とりあえず薬で様子を見る」を繰り返しているうちに、貴重な時間が過ぎてしまうことも少なくありません。適切な治療（手術、生物学的製剤など）につなげることが重要です。

だからこそ、

早めのCT検査を



「鼻症状が長引いているけれど、なんとなくやり過ぎている」「以前から治療しているけれど、なかなか良くならない」そんな方は、一度CTで副鼻腔の状態を確認することをおすすめします。原因がはっきりすれば、最適な治療への近道になります。なお、副鼻腔CTの被ばく量は約0.3mSvと非常に少なく、海外旅行の飛行機で浴びる放射線とほぼ同程度ですので、安心してお受けいただけます。

落合病院なら当日

CT撮影が可能です

当院では、耳鼻咽喉科外来を受診されたその日のうちにCT撮影を行うことができます。長引く鼻の症状でお困りの方は、どうぞお気軽にご相談ください。

